

A：そう思う B：やや思う C：あまり思わない D：思わない

評価項目	A	B	C	D	A	B	C	D	肯定比率
1 学校は教育方針を家庭に伝えている。	64人	63人	26人	3人	41.0%	40.4%	16.7%	1.9%	81.4%
2 学校は、子どもの様子を学年・学級通信・ホームページや保護者会等で伝えている。	112人	30人	16人	1人	70.4%	18.9%	10.1%	0.6%	89.3%
3 学校は、家庭や地域と連携をとっている。	68人	71人	16人	2人	43.3%	45.2%	10.2%	1.3%	88.5%
4 学校は、子どもの将来の生き方や考える力を育てようとしている。	62人	69人	22人	4人	39.5%	43.9%	14.0%	2.5%	83.4%
5 学校は、生命を大切にす心や思いやりの心を育てようとしている。	60人	70人	24人	3人	38.2%	44.6%	15.3%	1.9%	82.8%
6 学校は、いじめや差別のない学校づくりに取り組んでいる。	54人	72人	26人	4人	34.6%	46.2%	16.7%	2.6%	80.8%
7 学校は、子どもの発達段階を考慮し、個に応じた丁寧な指導を行っている。	73人	58人	25人	2人	46.2%	36.7%	15.8%	1.3%	82.9%
8 学校は、一人一台端末（タブレット）を活用した教育活動を行っている。	97人	47人	9人	4人	61.8%	29.9%	5.7%	2.5%	91.7%
9 学校は、学校行事に積極的に取り組んでいる。	94人	49人	11人	2人	60.3%	31.4%	7.1%	1.3%	91.7%
10 学校は、感染症対策を適切に行っている。	64人	77人	12人	5人	40.5%	48.7%	7.6%	3.2%	89.2%
11 学校は、保護者と協力してPTA活動に取り組んでいる。	92人	53人	12人	2人	57.9%	33.3%	7.5%	1.3%	91.2%
12 学校の校舎内外はよく整備されている。	119人	34人	2人	3人	75.3%	21.5%	1.3%	1.9%	96.8%
13 先生は、子どもを理解し、よいところを認めて指導している。	72人	59人	19人	4人	46.8%	38.3%	12.3%	2.6%	85.1%
14 先生は、子どもが間違ったことをした時、適切に指導している。	72人	55人	21人	5人	47.1%	35.9%	13.7%	3.3%	83.0%
15 子どもは、先生の健康について、気軽に先生に相談できる。	50人	69人	30人	5人	32.5%	44.8%	19.5%	3.2%	77.3%
16 子どもは、授業がわかりやすいといっている。	36人	73人	34人	11人	23.4%	47.4%	22.1%	7.1%	70.8%
17 子どもは、家庭学習の習慣が身に付いている。（家庭学習とは、学校・塾等の宿題も含む）	73人	45人	21人	14人	47.7%	29.4%	13.7%	9.2%	77.1%
18 子どもは、積極的に部活動に参加している。（3年生はしていた。）	90人	46人	8人	12人	57.7%	29.5%	5.1%	7.7%	87.2%
19 子どもは、学校行事を楽しみにしている。	74人	30人	15人	2人	61.2%	24.8%	12.4%	1.7%	86.0%

学校評価アンケート結果の比較分析

1. 全体的な傾向とハイライト

R6年度からR7年度にかけて、学校運営や教育活動に対する保護者の評価は全体的に底上げされています。特にR6年度で課題とされていた項目に改善の兆しが見られます。

- ・最も大きな改善：「家庭学習の習慣が身に付いている」（約10ポイント上昇）
- ・安定した高評価：「施設・設備の整備」「学校行事への取り組み」「タブレット活用」
- ・継続的な課題：「授業のわかりやすさ」（改善傾向にあるもの、他項目と比較すると低め）
- ・やや低下した項目：「先生への気軽な相談」「間違いに対する適切な指導」

2. 顕著に改善した項目（ポジティブな変化）

R6年度で比較の数値が低かった項目において、R7年度では明確な数値の上昇が見られました。

- ・家庭学習の習慣（Q17）
→R6：67.2% → R7：77.1%
→分析：R6年度には最も低い肯定比率（67.2%）で課題とされていましたが、R7年度では約10%上昇しました。学校や家庭での働きかけが奏功した可能性があります。
- ・教育方針の周知（Q1）
→R6：78.4% → R7：81.4%
→分析：教育方針が家庭により伝わるようになったと評価されています。
- ・タブレット端末の活用（Q8）
→R6：88.8% → R7：91.7%
→分析：GIGAスクール構想等のICT教育が定着し、さらに活発化していることがうかがえます。

3. やや低下・懸念が見られる項目

全体的に高水準ですが、数値がわずかに低下した項目があります。教師と保護者・生徒とのコミュニケーションの「質」や「深さ」に関わる部分で変化があった可能性があります。

- ・先生への気軽な相談（Q15）
→R6：80.0% → R7：77.3%
→分析：「子どもの心身の健康について気軽に相談できる」という項目が低下しました。保護者が相談しにくい環境や、接点の減少などがなかったか振り返る余地があります。
- ・間違いに対する適切な指導（Q14）
→R6：86.4% → R7：83.0% 分析：生徒指導に対する納得感がわずかに減少しています。

4. 主要項目の数値比較一覧

主要な評価項目（Q1～Q19）の「肯定比率（A+B）」を対比しました。

質問No.	項目概要	R6肯定率	R7肯定率	増減
Q1	教育方針の伝達	78.40%	81.40%	▲+3.0
Q2	情報発信（通信・HP等）	86.40%	89.30%	▲+2.9
Q3	家庭・地域との連携	88.80%	88.50%	▲-0.3
Q4	将来の生き方・考える力	81.60%	83.40%	▲+1.8
Q5	生命尊重・思いやり	82.40%	82.80%	▲+0.4
Q6	いじめ・差別のない学校	81.60%	80.80%	▲-0.8
Q7	個に応じた指導	82.40%	82.90%	▲+0.5
Q8	タブレット活用	88.80%	91.70%	▲+2.9
Q9	学校行事への取組	92.80%	91.70%	▲-1.1
Q10	感染症対策	85.60%	89.20%	▲+3.6
Q11	PTA活動	88.80%	91.20%	▲+2.4
Q12	校舎内外の整備	98.40%	96.80%	▲-1.6
Q13	教師の子供理解・称賛	86.40%	85.10%	▲-1.3
Q14	間違いへの適切指導	86.40%	83.00%	▲-3.4
Q15	気軽な相談	80.00%	77.30%	▲-2.7
Q16	授業のわかりやすさ	68.80%	70.80%	▲+2.0
Q17	家庭学習の習慣	67.20%	77.10%	▲+9.9
Q18	部活動への参加	86.40%	87.20%	▲+0.8
Q19	行事の楽しみ	83.20%	86.00%	▲+2.8

まとめと提言

R7年度は、「家庭学習の習慣」が大幅に改善したことが最大の成果と言えます。また、タブレット活用や情報発信についても評価が高まっています。一方で、「授業がわかりやすい（Q16）」は70.8%まで上昇しましたが、依然として他の項目（多くが80%～90%台）と比較すると低水準に留まっています。

今後のアクション案：

- ・家庭学習改善の要因分析：Q17が急上昇した具体的な要因（宿題の出し方の工夫、アプリの活用など）を特定し、次年度以降も継続する。
- ・相談体制の周知：低下したQ15（相談のしやすさ）に対し、相談窓口の再周知や、スクールカウンセラー等の活用案内を強化する。
- ・授業改善：Q16（授業のわかりやすさ）について、タブレット活用（Q8）の高評価を授業の質向上にどう結びつけるかが鍵となります。